

令和7年度 第2回福祉サービス運営委員会報告書

- 1 開催日時 令和8年3月12日(木) 14時～15時10分
- 2 会場 大分県福祉会事務局3階会議室
- 3 出席者 (第三者委員) 仲元研二氏 森脇 宏氏 吉田 隆氏 溝邊博見氏
(利用者家族委員) 梶 容子氏 仁田脇理帆氏
(事業所委員) 安東一夫施設長 関谷眞佐子施設長 安藤 覚施設長 堤 郁夫施設長
阿南奈緒美施設長
(法人代表) 安藤 覚理事長(森の木理施設長)
- 4 欠席者 後藤小百合氏
- 5 次第 (1)開会 (2)理事長挨拶 (3)委員長挨拶
(4)議事(本部、各施設の報告、協議、総評) (5)閉会
- 6 内容 安藤理事長、仲元委員長の挨拶後、委員長の進行で事務局及び各施設の現状と苦情や要望等の状況報告及び協議

(説明・報告)

(1) 本部事務局

① 重点的取組、法人の現状について説明

新たな理念及びビジョンに基づき目指すべき将来像を実現するため、中期事業計画の着実な推進に努め、安定した経営を維持し、利用者や地域の皆様から理解と信頼を得られるよう課題を明確にし、取り組んでいることを報告した。

② 苦情等

- ・苦情 ～ 匿名による、森の木内における職員間のパワハラに関する投書をもとに事務局長と顧問が幹部職員の面談を実施。その結果、コンプライアンス上問題となるようなパワハラにあたる事実は確認できなかった。より安心・安全な職場環境づくりを進めるため、職員配置や業務分掌の改善について助言・指導を行った。

③ ヒヤリハット・事故報告～なし。

④ その他

(2) 別府厚生館

① 重点的取組・施設の現状について説明

- ・定員16世帯(暫定12世帯)、7世帯28名が入所中である。
- ・安定した運営基盤づくりを進める、利用者支援の充実を図る、施設の多機能化・高機能化に取り組む、人材育成・定着に取り組む、リノベーションを推進する。

② 苦情等について

- ・意見箱への投書および口頭によるもの なし。

③ ヒヤリハット及び事故報告

- 服薬(2件) ・朝登校前に服用する薬を、前日夜に母親に渡し忘れる。⇒ 職員勤務の確認

④ その他

- ・インフルエンザ感染～利用者8名

(3) うえの園・清明あけぼの学園

① 重点的取組・施設の現状について説明

- ・支援ニーズの高い障がい者が安心できる居場所づくり、子どものウェルビーイングの実現、事業継続マネジメントの実践、人材マネジメントの推進、質の高い相談支援事業の提供、公益的な事業の充実に取り組んでいる。
- ・うえの園 施設入所支援：20名(定員20名) 生活介護：28名うち通所利用8名(定員20名)。
- ・日中一時支援・短期入所定員2名。
- ・相談支援事業所：特定相談支援～計画作成並びにモニタリング数298件。
障害児相談支援～計画作成並びにモニタリング数385件。
- ・清明あけぼの学園 施設入所 10名(定員10名)。
日中一時支援、短期入所 定員2名。
- ・児童発達支援事業所 ミモザ (定員10名)

② 苦情・要望

- ・意見箱 なし。

- ・口頭にて 1 件 清明あけぼの学園 来園していた保護者より、職員が廊下から居室の中に向けて足を 1 度振り上げた姿を見て、不安になり相談があった。→ 見守りカメラにて確認した結果、不適切な支援ではなかったが、不安に思わせた行為について、より丁寧な支援を心掛け誤解を招くようなことの無いように運営することを報告し終了となった。
- ③ ヒヤリハット（うへの園 0 件、清明あけぼの学園 1 件）
 - ・ 随時、LINWORKS や引継ぎなどで情報共有を行い注意喚起や改善などを実施。
- ④ 事故報告（うへの園 3 件、清明あけぼの学園 4 件）
 - 《うへの園》うへの園：他害 1 件 器物破損 1 件 散髪未実施 1 件
 - ・ 食後の片付け時に利用者同士が接触し首あたりを強くつかみ赤くなった。すぐに冷やすなど手当てをし、回復した。
 - ・ 利用者が、単独でスタッフルームに入り、ドリンクを飲んでいて。その時、パソコンにドリンクをこぼしたため、修理が必要になった。→ スタッフルームの施錠の徹底を再度周知した。
 - ・ 散髪を予約していたが、呼びに行くことを失念しており未実施だった。翌日お店へお連れする対応をした。
 - 《清明あけぼの学園》転倒 1 件 服薬 2 件 公用車自損事故 1 件
 - ・ 小学部利用者へ他利用者の薬を投与した。看護師の指示により水分を大目に飲んでもらい、バイタル測定を複数回して様子を見た。その後体調の悪化等は見られず、通常と同様に過ごした。
 - ・ 病院の駐車場にて公用車の左後方を柱に接触、剥がれ落ちたクッション材を弁償した。
- ⑤ その他
 - ・ インフルエンザ B 型感染 / うへの園 利用者 8 名、清明あけぼの学園 利用者 6 名 職員 1 名
 - ・ 溶連菌感染 / 清明あけぼの学園 利用者 1 名
 - ・ 男性利用者精神科への医療保護入院 9 月 20 日～11 月 20 日の間入院

(4) 森の木

- ① 重点的取組と現状について説明
 - ・ 安全安心に生活できる環境づくり、施設の高機能化・多機能化の推進、人材育成、職員のスキルアップ、働きやすい職場づくりの推進。
 - ・ 本体施設 20 名（定員 24 名）、地域小規模 9 名（定員 12 名）。
 - ・ 被虐待児童入所率（82.8%）療育通所児童（27.6%）ひとり親家庭（82.8%）。
 - ・ 子育て支援事業（ショートステイ等 546 日、一時保護 61 人延 990 日）ゆずりは・HOPE 相談等 4,849 件。
- ② 苦情等
 - ・ 聴き耳頭巾意見箱への投書等 なし
- ③ ヒヤリハット及び事故報告
 - (1) ヒヤリハット
 - ・ 小学生女兒が居室で勉強中、電気ストーブを使用させたところ、椅子に掛けていたジャンパーの袖の一部が熱で溶けていた。電気ストーブの使用についての注意・確認を行った。
 - ・ 服薬・・・小学生男児のアレルギー（鼻）の薬が 3 種類（2 袋）処方されていたが、1 袋を服用させていなかった。

医師に確認のうえ、残った薬はそのまま服用させている。症状の悪化等は見られなかったが、嚴重注意のうえ看護師と連携し防止策を確認した

※ ヒヤリハット事案については、職員会議等で全職員に周知し、注意喚起を行っている。
 - (2) 事故報告
 - ・ 公用車で高校生女兒を乗せ児童相談所に向かう途中、脇道から国道 442 号線に出る際に一旦停止。左側の駐車場にバンが駐車していたため、視認困難で少し前進したところ、左方向からきた自転車の右前輪付近と公用車の前方エンブレム付近が接触。事故処理後、相手方は右手甲と右足首を痛めたとのことで受診。湿布を処方されたとのこと。児童・職員にケガはなかった。
 - ・ 中学生男児が自転車で走行中、バランスを崩し壁に接触し、右第 5 指中手骨骨折。完治までは 6～8 週間の予定。

※ 交通事故については、職員会議・朝の引継時などあらゆる機会に声掛けを行い注意喚起するとともに、外部講師による研修を実施した。
- ④ その他
 - ・ 小学生女兒、1 泊入院

(5) 滝尾保育園

- ① 重点的取組・現状について説明
 - ・ 保育環境と保育内容の安定充実、職員研修の充実、働きやすい職場作り、公益的事業の充実、SNS を活用した情報発信に取り組んでいる。

- ・地区の家「えんえん」における事業の充実に取り組んでいる。
- ・園児数 221 名（定員 200 名）、一時預かり登録児数 45 名、放課後児童育成クラブ在籍児数 91 名。
- ② 苦情・要望等
 - ・近隣の住民から電話にて
「保護者の車の列で、自分方の駐車場に入れない」と苦情あり。
- ③ 事故報告
 - ・噛みつき 25 件と多いが、乳幼児期の発達段階において言語表現との関係によるものである。
 - ・病院受診 1 件 1 歳児カメに指をかまれ病院受診
- ④ 感染症の状況
 - 感染症胃腸炎 61 名、新型コロナウイルス 1 名、プール熱 4 名、アデノウイルス 3 名
溶連菌感染症 2 名、肺炎 2 名、インフルエンザ 129 名、その他 8 名
- ⑤ その他
 - ・病後児保育利用状況 延べ人数 30 名（5 月～2 月）

(6) 明野しいのみ保育園

- ① 重点的取組・現状について説明
 - ・保育内容の充実、架け橋プログラム（小学校との連携）着手、子ども主体の保育の充実、ICT 化の定着と DX の推進、働きがいのある職場づくりと保育現場の魅力発信、公益的事業の充実に取り組んでいる。
 - ・園児数 155 名（定員 152 名）。
- ② 要望及び苦情
 - ・2 歳児クラスの男児が玩具の取り合いにより、他児に顔を引っ掻かれ傷を負った。当日謝罪を行ったが、後日、傷口の保護や受診の判断についての意見をいただいた。
- ③ ヒヤリハット及び事故報告
(ヒヤリハット)
 - ・毎月リスク委員会で集計、職員に周知、11 月～2 月で 59 件。
 - ・噛みつき 9 件（主に 1～2 歳）
 - ・他

(園児) 転倒、公園で遊んでいた際フェンスから出た、公園のフェンスに針金が出ていて少し手を切る、どろりぐりを口に入れる、石を投げる

(職員) 給食のおやつ「やせうま」に金具が混入、作っている時ですぐに気づき除去する。トングの金具が外れていた。⇒調理器具の定期的な点検を行うよう

(事故報告) 病院受診したもの（○歳児は学年齢）。

 - ・0 歳男児) 園庭のスロープで転倒しコンクリート角部分で額を打つ。病院受診、様子見で終了。
⇒コンクリートの角部分にクッション材を取り付けた。
 - ・1 歳男児) 園庭の雲梯にぶら下がり損ねて柱にぶつかり右上前歯欠けたため歯科受診、様子見で終了。
 - ・1 歳男児) 公園で遊んでいた際、左掌に植物片のようなものが入る。病院受診して除去、終了。
 - ・3 歳男児) 保育参観時、公園の滑り台で立ち上がり転落、左腕骨折（左橈骨尺骨遠位端骨折）。保育士と父親が遊びを見守っていたが、保育士がその場を離れた途端事故が起きた。2 月末に抜糸し終了。
 - ・5 歳女児) 隣接公園で転倒し、夕方になり痛みを訴える。保護者が病院に連れていく。骨折疑いでギプスをするが、捻挫の診断で 5 日後ギプスが取れ包帯での固定。

- ④ 病気・感染症等の状況
 - インフルエンザ A (18) インフルエンザ B (7) 溶連菌感染症 (15)
マイコプラズマ肺炎 (4) ウイルス性胃腸炎 (2)
以下、各 1 名罹患
RS ウイルス、新型コロナウイルス、アデノウイルス、突発性発疹、流行性角結膜炎
- ⑤ その他
 - 2 月に保護者会協力のもと、子ども服のおゆずり会を実施した。特に体操服は好評。
余った子ども服は「古着でワクチン」に寄贈する。

(協 議)

○委員より

- ・別府厚生館：別府厚生館について気になるような問題はない。立田町自治会の高齢化が進んでいるため、町内自体の行事などでは子どもの参加が少ない中、別府厚生館の参加による活性化に期待ができ、今後も共に

進めていきたい。

- ・うへの園、清明あけぼの学園：何かトラブルがあった場合には、加害者側・被害者側どちらの場合であっても家族への連絡をお願いしたい。
災害時の対策について、避難場所などを家族会にてお伝えいただきたい。それによって、ご家族にも安心していただけたらと思う。
事故報告にある利用者がドリンクをパソコンにこぼした件については、スタッフルームの施錠で防げるようであれば、徹底をお願いしたい。
- ・森の木：聞き耳頭巾での相談が、ゼロということは初めてだった。これまで話しをするだけでもすっきりしたという声もあったので、これからは子どもと外部の方が話をする機会は作っていくことが良いと思う。
- ・滝尾保育園：「えんえん」の庭で摘んだ植物を使った草木染などいい体験をしている。→これからは「えんえん」を園児の保育活動にもっと活用していきたい。
児童クラブについて、小学校3年生で抽選に漏れた子どもはどうなっているのか心配される。兄弟児については、抽選でなく、同じ場所で利用できるように配慮できないのだろうか。3年生ではまだ、何かと心配な年ごろだと思う。→抽選に漏れた子どもは、学校付きの学童クラブに行けるようになっている。現状個別での配慮は、ルール付けが難しく行っていない。兄弟で学校付き児童クラブを利用することを選ばれることもあるので、心配はないと考えている。
- ・その他：人材確保が難しいことがうかがえるが、法人の状況について質問あり。→施設によっては実習生をたくさん受入れしている。しかし、就職先として保育園等を選ぶかどうか決まっていなかった生徒さんが多くなってきた。また大分県内の大学も学生が減り、それぞれの大学でも学生の確保が難しい状態になっている。人材確保の対策は法人の努力だけではなく、各市町村単位で、各種補助金を出すなど保育士確保を積極的にしている地域が増えている。
(福祉施設を運営している委員より) 支援する職員は、利用者から叩かれても泣き寝入り状態、また危険認知が低く飛び出そうとする利用者を停める場合、支援の仕方によっては、虐待といわれかねない状況がある。職員の方の意欲をそぐような福祉現場の在り方にも課題を感じている。
- ・(欠席の後藤委員より) 今期で退任されるにあたり、書面にて保育園への感謝や委員会へ参加したことで法人の取組などを知るよい機会が持てたことへの思いが伝えられた。

○森委員の総評

- ・社会全体が、人手不足労働力不足に苦慮している。転職への抵抗がなくなってきたことも要因の一つ。職員確保も大変な中、各施設の報告を聞き、丁寧に取組まれていることが分かった。職員の方たちの負担や人が足りているのか、困りごとがないのか働き方時間の工夫など機会があれば悩み事など知らせてほしい。

○理事長あいさつ

委員の方からのご意見を各施設の運営に活かしていくこと、1年間の委員会への参加の御礼と引き続き法人運営についてのご理解とご協力をお願いをする。

7 閉会

全ての日程を終了し、15時10分閉会。